広報 あさお

8月15日
No.212

発行所　麻生町1561－9　麻生町役場
発行人　電話②0811㈹　小沼幸蔵
印刷所　麻生印刷

〈人口〉

男	8,916人
女	9,137人
計	18,053人
世帯数	3,916戸

8月のメモ

4日　漁業調整委員選挙
6日　町親善野球大会決勝
9日　例月出納検査
麻生地区税務協議会
17～19日　議員研修会
18日　消防ポンプ取扱講習会
農業委員会
20日　鹿行町村職員球技大会
21日　教育委員会
22日　営農会議
22～23日　防火管現者講習会
移動保健所
22～24日　区長会研修視察
26日　綱いけす造設のための土砂掘削審議特別委員会
28～29日　消防団本部研修視察
28～30日　乳児検診
31日　町県民税、国保税徴収

かわりゆく祭

〈わらに変身した馬出し祭〉

▶男性的に威勢のよかった昨年までの馬出し祭〈昨年八坂神社境内にて〉

祭りは、日本人の心から離れられないものがありますが、各地方で、年々時勢に流され祭りの縮少を余儀なくされています。

「どぶろく祭」とともに麻生で行なわれている奇祭として有名だった「馬出し祭」も時勢には勝てず、４００年の伝統であったあばれ馬と若者との組み合わせは、コンビ解消となってしまいました。

７月２４日、生馬に代ってわら製の「人造馬」を八坂神社境内（天王崎）に見たときなんともいわれぬ寂しさを感じ、ミコシをかつぐ若者にもなにか元気がないように感じられたのは、私ばかりではないでしょう。

このような時に「祭りはやし」を俺たちの手で、と、大麻神社秋の祭礼にそなえ、若者たちが技術の勉強に取り組む姿が、二・三の部落にあらわれたのは、日本人の心がさせるのでしょうか、年に一度の祭りの響きはいつまでも残しておきたいものです。

▲わらで造られた馬だけに稚児は安心して乗っていられる。
〈7月24日撮影〉

第二回定例町議会

一般会計補正九二三万八千円

町議会第二回定例会が七月二十四日開催され、六議案が原案どおり可決されました。

また、請願二件のうち、「四十七年産生産者米価等に関する請願」は受理されました。

〈請願第1号〉　綱いけす造設に関する請願

これについては、第四回臨時議会に提出され、「綱いけす造設のための土砂掘削審議特別委員会」のなかで検討してきましたが、土砂掘削に対する反対陳情も提出されていますので、土砂を掘削しないで綱いけすを設置することができるかどうか継続審査をすることになりました。

〈請願第2号〉　四十七年産生産者米価等に関する請願

これは要求米価貫徹第一区生産者大会において決議されたもので、生産者米価を一俵（60㎏）当り平均一万千八百六十三円とすること、予約制度は従来どおりとすることなどです。本議会で請願どおり受理されました。

〈議案第47号〉　麻生町営住宅建設工事請負契約について

町営住宅は大字富田に三棟十二戸を建設することになっていますが、指名競争入札により、大字富田実川組が千百五十万円で工事契約をしたものです。

〈議案第48号〉　麻生町立東町民柔剣道場工事請負契約について

大字蔵川に建設されることになっている「東町民柔剣道場」の工事請負について、潮来町の上羽建設㈱が千五百万円で契約したものです。

〈議案第43号〉　麻生町特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例

助役の給料月額十五万千円収入役の給料月額十四万五千円とするものです。

〈議案第44号〉　昭和四十七年度麻生町一般会計補正予算

歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ九百二十三万八千円を追加し、歳入歳出それぞれ七億千九百三十五万四千円とするものです。

〈議案第45号〉　昭和四十七年度麻生町国民健康保険特別会計補正予算

事業勘定の歳入歳出予算の総額に、歳入歳出それぞれ五万円を増額し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ二億四十七万千円とするものです。

〈議案第46号〉　昭和四十六年度麻生町営国民宿舎白帆荘運営事業会計決算認定

昭和四十六年度白帆荘の事業収益は八千七百二万円、事業費用八千百四十四万円で純利益は四百六十七万六千円でした。

なを、四十六年度の宿泊利用者は、二万二千八百六十六人で一日平均六十三人。休憩利用者は二万三千六百六十九人で一日平均六十五人でした。

老齢年金の証書交付

年金支給9月6日

老齢、障害、母子、福祉年金受給権者より証書をお預りしておりましたが、証書の事務処理が終りましたので次の日程により証書の交付をおこないますから印鑑をもって受け取りに来てください。

年金の支給日は、九月六日です。

〈小高地区〉　8月29日、前9時～11時30分、小高中央公民館

〈行方地区〉　8月29日、後1時～3時30分、行方幼稚園

〈太田地区〉　8月30日、前9時～11時30分、太田公民館

〈大和地区〉　8月30日、後1時～3時30分、大和公民館

〈麻生地区〉　8月31日、前9時～11時30分、町民課

潜在看護婦の調査

県では、看護婦確保対策の一環として、潜在看護力の再稼働を促し、看護婦不足を緩和するために、看護婦等の免許所有者で、現在看護業務に従事していないものを別紙要項に基づいて調査し、あわせて就業を希望する者に就職に必要な講習会を開催することになりました。

県内に在住する保健婦、助産婦、看護婦または准看護婦の免許所有者で現在看護の業務に従事していない人は、八月十五日から九月十四日までの間に役場か保健所へご連絡ください。講習会は、土浦、下館、水戸、日立の県内四地区で十月に三日間実施の予定ですが、受講希望者には個別に通知します。

〔善〕〔意〕

矢幡の塙新次郎、大崎泰助矢幡留吉、宮内大一郎、花留雄さんは、七月二十・二十一日の二日間部落内町道の草刈りをしました。この労をねぎらい矢幡勇さんは、茶菓を贈りました。

篭田の一村ふみさんは、婦人会篭田支部へレコードプレーヤーを贈りました。

善意銀行へ次のかたが預託されました。

矢幡老人クラブ福寿会は、太田小学校へぞうきん百三十二枚。

麻生小学校へ下渕老人クラブ和幸会は、ぞうきん三百八十五枚、現金千六百円。新原老人クラブ長生会は、ぞうきん二百二枚、竹ほうき三十本。

井貝老人クラブときわ会は井貝子ども会へ千三百六十三円。

富田の橋本益夫さんは、麻生中学校へ鳩のはく製。

新原老人クラブ長生会は、生活の困っている人へ千八百三十一円。

麻生の鬼沢えいさんは、麻生小学校へぞうきん二百本、麻生中学校へぞうきん百本。

於下の鬼沢利守さんは、於下老人クラブ祐寿会へ千円。

家庭の日 毎月第三日曜日

楽しい家であるよう

小学生の図画・作文募集

毎日が楽しい家庭であるようにねがっても、いつも忙がしい仕事に追われ、ともすれば家庭での人間的接触がうすれがちです。そこで、家族みんなが暖かく心の触れあう機会をもち、明るく楽しい家庭づくりをする日として、毎月第三日曜日を「家庭の日」として定めてあります。いつになっても忘れない「家庭の味」「心のふるさと」をつくる日、それが「家庭の日」です。

この運動がさらに普及するために、本年も「家庭の日」に関する図画、作文の募集をおこないます。夏休みを利用してたくさん応募してください。

〈主催〉　茨城県、県教育委員会、青少年育成県民会議

〈対象〉　県内小・中学校の児童生徒。

〈作品　(1)図画は、クレヨン画、水彩画、版画のいずれでもよく、用紙は普通小・中学校で使用している画用紙とし、その大きさは任意とする。作品の裏に町名学校名、学年、氏名（ふりがな）を記入する。

(2)作文は四百字詰原稿用紙五枚以内とする。書き出しに題名、町名、学校名、学年、氏名（ふりがな）を記入する。

〈提出〉　九月末日までに各学校に提出してください。

〈審査〉　学校から教育委員会に提出された作品について町で審査し、図画、作文それぞれ三点を十月二十日までに青少年育成県民会議に提出、県民会議で、市町村より提出された図画、作文を審査し、図画、作文とも二十点の優秀作品を決定する。

優秀作品に対しては、明年二月ごろ表彰式を開いて賞状および賞品を授与する。県に提出された優良作品については賞状および参加賞をおくる。

シンナーの乱用防止

違反者に罰金

八月一日から九月三十日までを「シンナー等有機溶剤乱用防止強調期間」として、シンナーなどの乱用防止運動を実施します。

シンナーはペンキなどの塗料をとかすものですし、セメダイン、ボンドなどの接着剤は、物をくっつけるために使われるもので、これを麻薬がわりに吸って常用すれば、シンナーなどに含まれている有機溶剤によって脳を犯されたり、胃腸や肝臓などが犯されて、栄養失調や精神障害を起しやがては廃人同様となり死を招きます。

県の調べによると、昨年このシンナーなどを乱用して補導された青少年は千四百九十四名で、そのうち死亡した者が六名、精神異状で入院した者がこれまでわかっただけでも十名をこえました。

このシンナーを乱用している者は、ビニールの袋などを口にあてて吸っていたり、頭からかぶったりして吸っています。これらは勉強部屋で、友達の家で、あるいは人目につかない神社の境内や山の中などにかくれて行なわれていますので、こんな状態を見かけたら役場か警察、学校などへ連絡してください。

また、近くの青少年相談員民生（児童）委員などに相談するか連絡をしてやめさせるようご協力を願います。

県の条例では、シンナー、接着剤などの乱用を知って販売したり、乱用することを勧誘したり強要したりすることを禁止し、違反者には罰則も適用されることになっていますし、こんど国でも、毒物及び劇物取締法が改正され、乱用を知って販売することはもちろん摂取したり、吸入したり、また、これらの目的で所持することも禁止され、違反しますと罰金などが適用されることになりました。

町では、一人でもこのようなことがないよう皆さんのご協力をお願いします。

キャラバン隊のお兄さんたちの指導でゲームに楽しむ大和・太田地区の子ども会

子ども会キャラバン隊

麻生一中に来る

子ども会キャラバン隊が七月二十五日、麻生一中体育館にやってきました。

このキャラバンは、茨城県県教育委員会、県子ども会育成連合会が主催しているもので、▼子どもたちの夢と希望をみたしましょう。▼おとなたちの心のパイプをつなぎましょう。▼高校生たちの奉仕に感謝しましょう。ということで、A・B・Cの三コースにわかれ七月二十四日から八月十日まで、県内各地を巡回しているものです。

麻生へ来たキャラバン隊はAコースで隊員は、県内の高校生から選ばれた十一人です。大和・太田地区の子ども会員二百人（小学五・六年生）は良いお兄さんたちの指導で、うたやゲームに楽しい二時間を過ごしました。

父兄の四十二人は、キャラバン指導者と子ども会育成関係者懇談会をもち、子ども会の育成について話しあいました。子ども会の元気な活動で有意義な夏休みになることでしょう。

事業所統計調査

第10回　9月1日

九月一日から七日にかけて事業所統計調査が実施されます。事業所統計調査は、国勢調査とならぶ国のもっとも基本的な統計調査で、事務所、工場、店舗、飲食店、映画館をはじめ、公民館、美術館、寺院、神社、病院、研究所、学校、駅にいたるまであらゆる種類の事業所をもれなく調べ、都道府県、市区町村別の事業所数、事業所の産業別、規模別構成を明らかにするために行なう調査です。

九月一日には全国いっせいに事業所統計調査が実施され、町内三百五十か所の事業所について、調査員が訪問し名称、所在地、事業の種類、従業者の数などについておたずねします。調査したことがらは、統計を作る目的にだけ用いられ、徴税など申告者の不利益になるようなことに使われることはありませんのでご協力を願います。

国民年金の保険料は、七月から一か月につき五百五十円になりました。

行方郵便局長に鈴木久弥氏就任

行方郵便局前局長の鈴木茂氏が、六月十二日に死亡されたため、後任局長に鈴木久弥（大字五町田46歳）氏が就任されました。

社会を守る警察官募集

犯罪のない明るい社会を守る警察では、いま、あなたのフレッシュなセンスと豊かな能力を待っています。

給与もよく、被服類も支給され、さらに実力次第で上級幹部に昇格できます。

▽受験申込　十月七日まで、申し込み用紙は、駐在所警察署に有ります。

▽受験資格　昭和四十八年四月一日現在で十八歳以上二十八歳未満のかた。学歴は問いませんが、高校卒程度の学力を有するかた。

▽採用人員　茨城県警察官男子約80名

▽試験期日　第一次試験十月八日（日）鉾田、土浦警察署ほか、採用は、昭和四十八年四月一日の予定です。

〃	女子	10名	
警視庁警察官男子	25名	植木 一恵	世帯主
千葉県警察官男子	10名	羽生 雅代	住所
埼玉県警察官男子	5名	岸川 泰子	麻生
神奈川県警察官男子	5名	深沢 薫里	〃
		糸賀 正臣	〃
		原 伸一	〃
		土子さおり	正衛 矢幡
		奈良崎香織	新一 蔵川
		真家 秀和	秀雄 四鹿
		鈴木 輝夫	市太郎 〃
		高須 等	儀一郎 白浜
		松波 俊彦	正利 〃
		千葉 治	治郎太 宇崎
		平山真奈美	源一 〃
		小峰 孝	四郎 〃
		原目 弘	一男 青沼
		横山 隆道	友保 〃
		羽生 勉	慶三郎 〃
		新治ゆみ子	保男 行方
		川尻 智子	タケ 於下
		大里かおり	真一 島並
		奈良崎恵美子	健助 〃
		松沢三智子	洸一 橋門
		川尻 誠司	吉蔵 井貝

善行少年に

善行賞と記念バッジ

住みよい郷土いばらきを建設するためには、県民すべてがおたがいに愛しあい協力しあっていくことが必要です。

そこで特に青少年の善意や親切心を伸していくことからよい行ないをした青少年に善行賞と記念のバッジをおくりその善行をたたえますので、善行青少年がいたときは、いつでもどなたでも、役場か教育委員会、学校、警察署などに知らせてください。このなかから生活福祉事務所が適当と認めたときは善行青少年として善行賞を交付します。

〈おくやみ〉

山本 晃喜雄 富田
吉崎 信子 富王 〃
今泉 香吉 アキ 五町田
菅谷ちよう 於下

〈おめでた〉

大盛 かつ 常七 麻生
大槻 了俊 芳枝 〃
松崎 とし 安男 〃

戸籍の窓口

会員物故者の法要

本城長寿会

宿本城長寿会（大矢祝延会長）は、会員物故者法要を7月15日、蓮城院と常安寺で関係者を集め実施しました。

小雨の降る中を午前10時から蓮城院にて関係者7名の法要、11時から常安寺にて15名、計22名の今はなき先輩各位の供養がしめやかに行なわれました。

短歌

稲の葉に結びて光る朝露を
　ふりこぼしつつ畦草を刈る　土子源太郎

梅雨葎はびこるままの空屋敷
　守る子住まざる名門の裔　布施耕一郎

つやめける柿の若葉の色増して
　夏衣に替へし児等走りゆく　滝崎 富美

ひとふりの尾びれの惰性なめらけく
　鯉入りゆきぬすゐれんの下　小沼 俊平

産褥に子猫かかえる親の目は
　するどくわれの挙動見まもる　椿 真太郎

贈られし歌集を書架に立てて見つ
　又出して見つ飽かず眺めぬ　箕輪徳二郎

木もれ陽に縋りてのびるどくだみの
　真白き花はひそと咲きいる　茂木 米

労力を控えて父の植替えし
　紫陽花雨に息吹き葉を張る　小沼 芳江